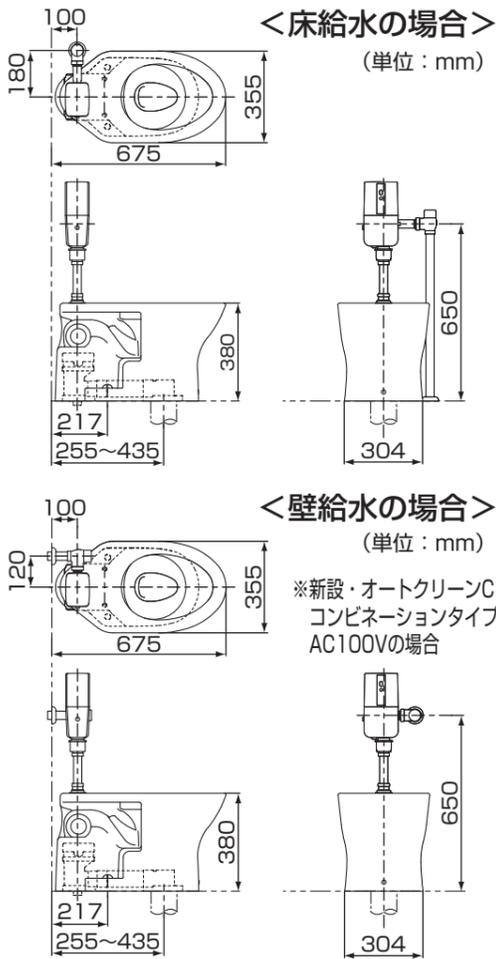


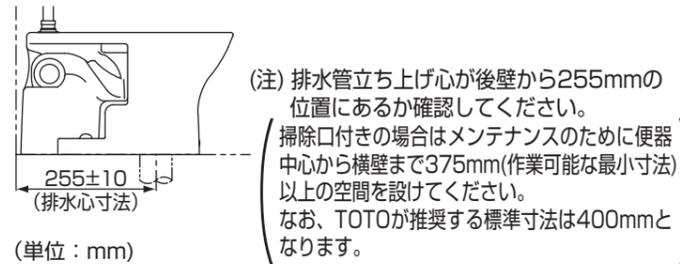


# 完成図

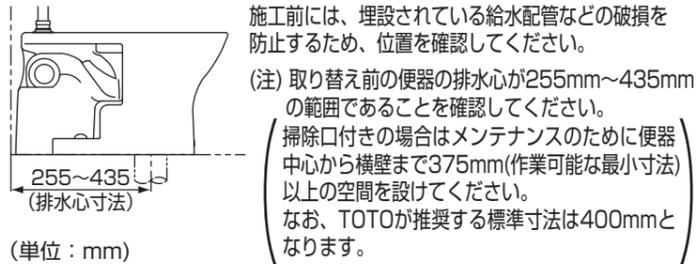


# 取り付け前のご注意

## パブリック便器対応排水心 <新設 対応排水心>



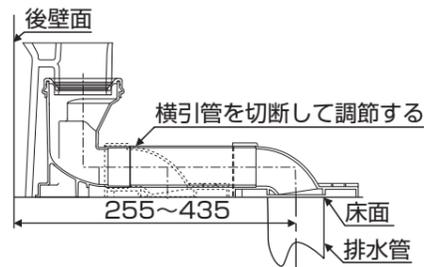
## <リモデル 取り替え対応可能排水心寸法>



- ・施工や運搬、清掃時に触れる可能性のある金属類は、陶器と接触しないようにしてください。金属類が陶器表面をこすり、スジ状の跡が付くおそれがあります。
- ・取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
- ・施工前に給水管取り出し位置および排水管位置が所定の位置であることを確認してください。所定の位置にない場合、商品が正しく取り付けられないことがあります。
- ・給水圧力は最低必要水圧0.05MPa(流動時)、最高水圧0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲でご使用ください。
- ・商品への通電および通水は取り付け作業をすべて終えてから行ってください。
- ・取付面がコンクリート、モルタルの場合は、樹脂プラグ「HH04060(φ8、10個1組)」を別途手配してください。
- ・排水アジャスターを組み立てる際は、塩ビ用接着剤を**全周に十分塗布**し、最後まできちんと**押し込んで**ください。水漏れのおそれがあります。



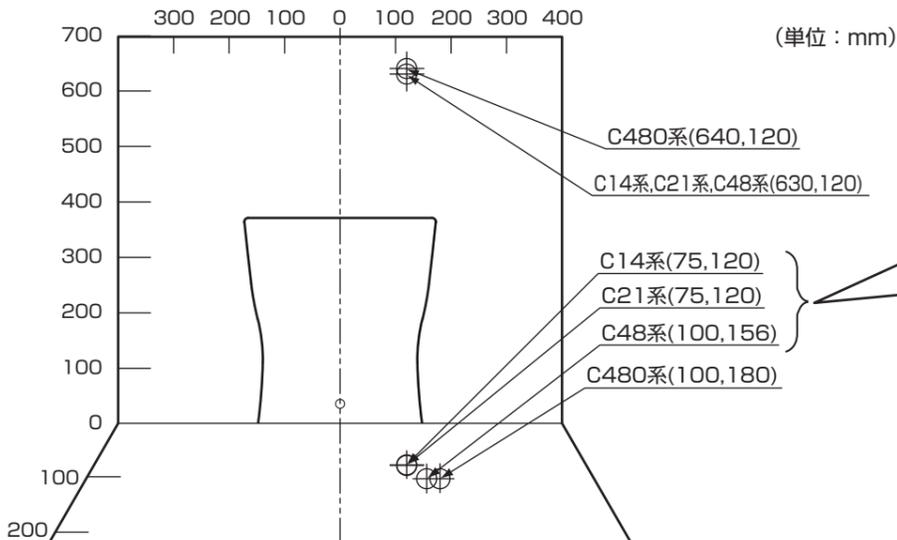
- ・排水心の確認  
横引管を排水心にあわせて切断し、塩ビ接着剤で確実に接続してください。  
※排水心255mmの場合、横引管は不要です。



## 取り替え対応可能給水位置

## リモデルの場合

- 既存の給水管から便器中心線までの寸法によっては、取り付けできない場合があります。便器と給水管が干渉する場合は、5ページを参考に施工してください。
- 既存の給水管位置によっては、別途部材を手配していただく場合がありますので、下表をご確認ください。



※左側に給水位置がある場合は、フラッシュバルブを逆向きにセットすれば設置できます。

この位置からの取り替えの場合は、偏心洗浄管(25mm偏心)と心間調整連結管を別途現場手配し、ご使用いただくことになります。

		C14系、C21系からの取り替え用品番		C48系からの取り替え用品番	
マニュアルフラッシュバルブ TV565/665/585型	偏心洗浄管	上水	TN129R	—	
		再生水	TN129DR	—	
	心間調整連結管	上水	THD59P120	THD59P160	
		再生水	同上	同上	
オートクリーンCコンビネーションタイプ TEV30/40型	偏心洗浄管	上水	TN129R	—	
		再生水	TN129DR	—	
	心間調整連結管	上水	THD59P120	THD59P140	
		再生水	同上	同上	

※偏心洗浄管は既設給水管がC14系、C21系の位置(推奨施工位置:後壁から75mm)の場合に使用できます。

※偏心洗浄管には給水ワン座金が同梱されています。既存の給水管位置により、フラッシュバルブに同梱の給水ワン座金が取付けできない場合に使用してください。

# 取付方法

位置決めシートと床給水管が干渉しない場合の取付方法になります。位置決めシートと床給水管が干渉する場合は5ページをご参照ください。

## 1 位置決めシートの位置決め

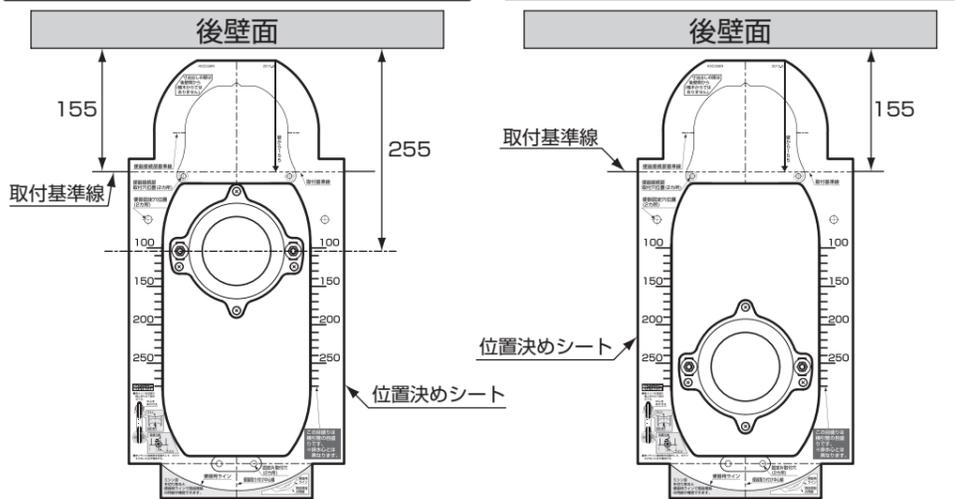
後壁面から取付基準線をあわせて、位置決めシートを置く。  
※寸法出しの際は後壁側から(幅木からではありません)。

### 新設

※床フランジの中心が、後壁から255mmの位置にあるか確認してください。250mm以下の場合、便器が後壁に干渉し取り付けできません。

### リモデル

※後壁面から取付基準線の寸法が155mm未満になると、便器が後壁面に干渉し、取り付けられないおそれがあります。

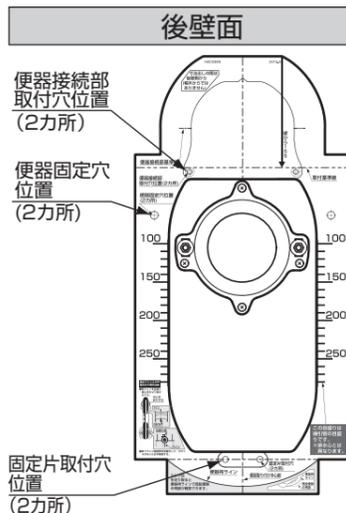


## 2 位置決めシートで取付穴位置をけがく

便器接続部取付穴位置、便器固定穴位置、および固定片取付穴位置(6カ所)をけがく。

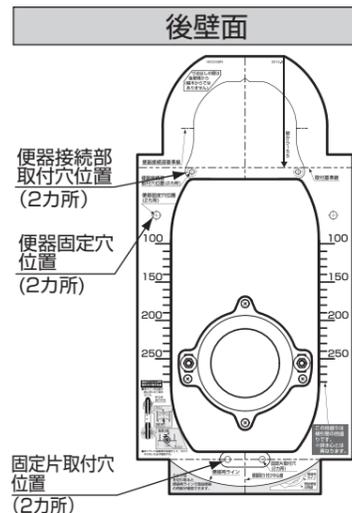
※φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。

### 新設



### リモデル

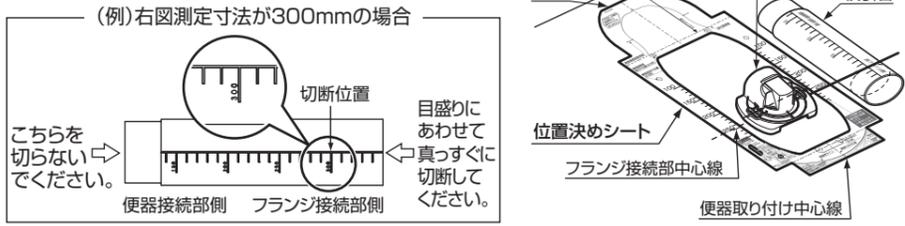
(単位: mm)



### 3 横引管の切断 **リモデルの場合**

※新設の場合はこの作業は不要ですので**4**へ進んでください。

- ①既設フランジ中心線と床フランジ接続部中心線をあわせる。
- ②位置決めシートが目盛りと同じ目盛り位置で横引管を真っすくに切断する。
- ③横引管端部のバリを完全に取り除く。



### 4 排水アジャスターの組み立て

※新設の場合、横引管はありません。

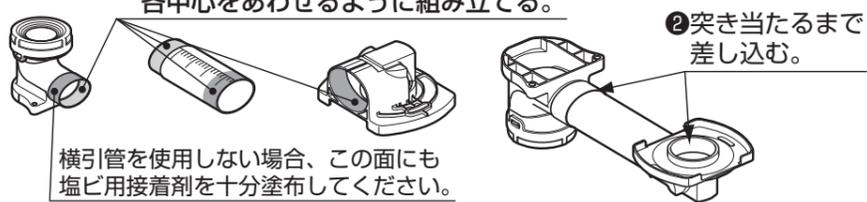
#### 注意

**横引管は最後まで、きちんと押し込む**  
 接着が不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。  
**床面に対してガタツキがないように接着する**  
 ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

- 排水心255~435mmの場合

①塩ビ用接着剤を**全周に十分塗布**し、各中心をあわせるように組み立てる。

②突き当たるまで差し込む。



横引管を使用しない場合、この面にも塩ビ用接着剤を十分塗布してください。

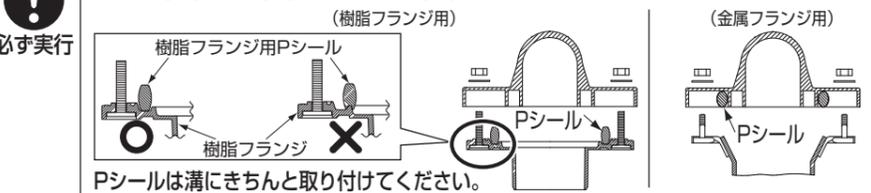
### 5 固定片・排水アジャスターの取り付け

#### 注意

**禁止** 塩ビ管用床フランジ(HP430)同梱のゴムパッキン、白色パッキンは使用しないこと  
 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

#### Pシール取り扱い上の注意

●既設の床フランジのタイプにあわせ、必ず同梱(再取り付け時は同品番)の金属フランジ用Pシール(補修品番: TH633)または、樹脂フランジ用Pシール(補修品番: TH633-3)を使用する  
 ●既設のフランジタイプによって、Pシールのサイズと取付方法が異なるので、注意する  
 Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や便器が詰まり汚水があふれたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

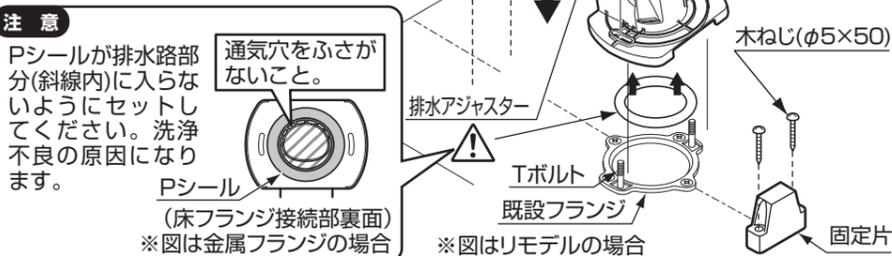


- ① **樹脂フランジの場合** Pシール(樹脂フランジ用)をフランジにセットする。  
**金属フランジの場合** Pシール(金属フランジ用)を排水アジャスターにセットする。

②排水アジャスターをフランジに押し付けてから、便器接続部の取付穴(2カ所)に木ねじを入れ、確実に締める。

③床フランジ接続部を、ワッシャー・ナットで既設フランジに固定する。

④固定片を所定の位置にあわせて、木ねじで床に固定する。



**注意** Pシールが排水路部分(斜線内)に入らないようにセットしてください。洗浄不良の原因になります。  
 通気穴をふさがれないこと。  
 Pシール (床フランジ接続部裏面) ※図は金属フランジの場合  
 ※図はリモデルの場合

※気温が下がるとPシールが固くなることがあります。このときは、Pシールをあたたためて柔らかくして使用してください。

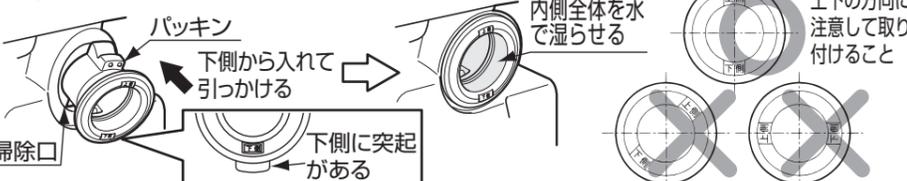
### 6-1 掃除口の取り付け

#### 使用工具

六角棒スパナ(呼び径4)

<取り付けかた>

- ①パッキンを掃除口に取り付ける。



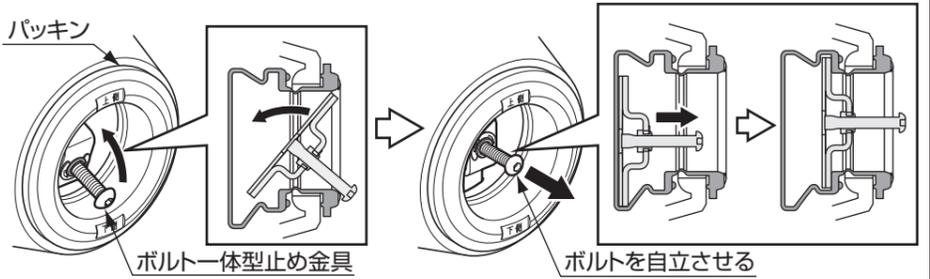
※パッキンの内側全体を水で湿らせると滑りやすくなり、施工が確実に行えます。

#### 注意

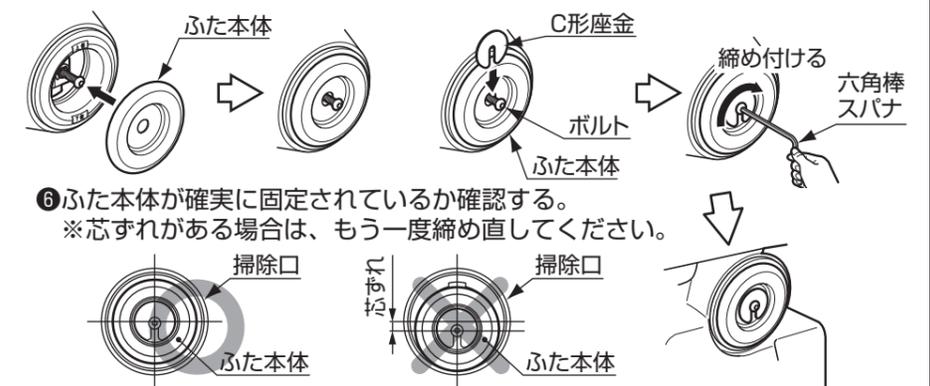
**必ず実行** パッキンは必ず上下方向を確認して便器に取り付ける  
 誤った向きに取り付けると水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

### 6-2 掃除口の取り付け

- ②ボルト一体型止め金具をパッキン内に挿入する。
- ③ボルトを持ち、手前に引くことで止め金具を自立させる。



- ④ボルト頭をふた本体の中心穴に通して、ふた本体を取り付ける。
- ⑤C形座金をボルト頭とふた本体の間に入れ、ボルトを締め付ける。  
 ※軽くボルトを締めてからC形座金を入れるとC形座金が脱落しにくくなります。



- ⑥ふた本体が確実に固定されているか確認する。  
 ※芯ずれがある場合は、もう一度締め直してください。

#### 注意

**必ず実行** 必ずふたを確実に固定したことを確認したうえで、洗浄を行うようにする  
 必ずパッキンの突起部全周が半分以上つぶれるまで締め付けられているかを確認する  
 締め付けが足りない場合は水漏れにより家財に損害を与えるおそれがあります。万一水漏れする場合には締め増しをしてください。

<取り外しかた>

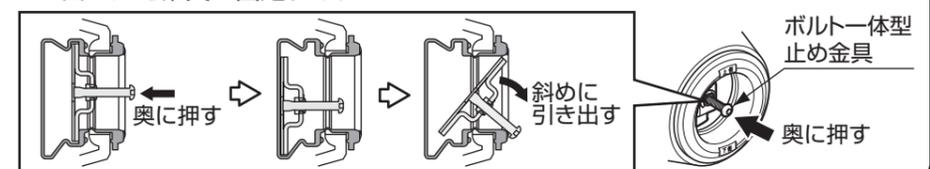
#### 注意

**必ず実行** 便器に異物が詰まり掃除口のふたを開ける際には、必ず便器内の汚水を抜いてから行う  
 汚水が掃除口部よりあふれ、床を汚すおそれがあります。

衛生面から作業前に必ずゴム手袋を着用ください。

**注意** パッキンを取り外す際は必ず止め金具を取り出してください。止め金具を取り付けたままパッキンを引き抜くと破損します。ボルトを緩めるとC形座金が落下します。C形座金の紛失にご注意ください。

- ①止水栓を閉める。
- ②便器内の汚水を抜き、床を汚さないために、掃除口の下に厚手のぞうきんなどを用意する。
- ③六角穴付きボタンボルトを限界までゆるめる。  
 ※ボルトが抜け落ちない構造になっており、途中から回らなくなります。
- ④C形座金、ふた本体の順に取り出す。
- ⑤止め金具を一度、パッキンの奥に押し斜めに引き出す。  
 ※止め金具を軽く持ち上げ、奥に押し出すと外しやすくなります。
- ⑥パッキンを取り外す。
- ⑦詰まり除去の作業後、上記の取付方法に沿って掃除口ふたを確実に固定する。



### 7-1 便器の取り付け

#### 注意

**必ず実行** 便器後部の固定を必ず先に行う  
 前側の固定を先に行くと、便器が後方にスライドし、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

- ①便器排水口および排水アジャスターの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、便器排水口を便器接続部に差し込む。  
 ※便器の持ちかたは右図を参考にしてください。
- ②便器後側の取付穴(2カ所)に木ねじ(後固定用)・ワッシャー(後固定用)・化粧キャップ(後)を差し込み、便器を床に固定する。  
 ※締め過ぎて便器を割らないように注意してください。
- ③便器側面の取付穴に皿木ねじを差し込み、固定片に便器を固定し、ねじの頭に化粧キャップ(前)を差し込む。  
 ※最後の締め増しは、手締めにより行い便器を割らないように注意してください。



## 7-2 便器の取り付け

木ねじ (φ4.8×90)

化粧キャップ (後)

ワッシャー

※ワッシャーの向きを間違えないこと。

床面に不陸がある場合、大便器下面にかい物をして大便器を固定したあと、すき間を白セメントなどで埋めて仕上げてください。

すき間は白セメントなどで埋めて仕上げる

かい物

血木ねじ (φ5.8×56)

化粧キャップ (前)

ゴムジョイントがきちんと取り付けられていることを確認してください。

※壁面に幅木があり便器が取り付けられない場合には、幅木をカットしてください。

## 8 化粧キャップ付きねじの固定

<取り付けかた>

①化粧キャップを開け、木ねじを取り付ける。

開ける

開ける

溝部

②化粧キャップを矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がするまで押し込む。

閉める

ワッシャーの向きを確認  
凸形状を上向きにする

セット後

**注意**

ワッシャーは正しい向きに取り付ける  
反対向きに取り付けると陶器または部品が破損するおそれがあります。

必ず実行

<取り外しかた>

マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップの溝部に差し込み、矢印の方向に押さえて開く。

開ける

溝部

マイナスドライバーなど

## 9 フラッシュバルブの取り付け

**注意**

給・排水接続部などからの水漏れ有無を確認するために施工後に便器洗浄を行うこと  
便器洗浄を行わないと、給・排水接続部などから水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

必ず実行

フラッシュバルブの取り付けに当たっては、フラッシュバルブ付属の施工説明書に従ってください。

※C14系、C21系床給水からの取り替えの場合は、給水管の立ち上げに専用給水ワン座金(偏心洗浄管に同梱)を使用してください。

※マニュアルフラッシュバルブは、止水栓の調整を必ず行ってください。

## フラッシュバルブと便器洗浄状態の調整

下図を参考に、フラッシュバルブの止水栓を回して、瞬間流量を調整する。

### オートクリーンC (TEV型) の場合

オートクリーンC (TEV型) を取り付ける場合は、止水栓を全開にし、手動洗浄ボタンで水勢を確認してください。

**注意**

流動時の水圧が0.5Mpaを超える場合は、便器から水があふれたり、節水できないことがあります。

この場合のみ、一周した巡回水の高さがリム上面から45mm程度になるように止水栓開度を調整してください。

水勢が強すぎると水が外に飛び出すおそれがあります。とくに右手前からのあふれに注意してください。



### オートクリーンC (TV型)・マニュアルフラッシュバルブの場合

オートクリーンC (TV型)・マニュアルフラッシュバルブを取り付ける場合は、ラベルを参照の上調整してください。



水勢が強すぎると水が外に飛び出すおそれがあります。とくに右手前からのあふれに注意してください。

#### ワンポイント

一周した巡回水の高さが左図の の上限線側になるように止水栓を調整してください。

巡回水の高さ  
リム上面から45mm程度

## 洗浄水量の切替方法

オートクリーンCの場合のみ

自治体によって洗浄水量の規制がある場合は、大洗浄4.8L・大洗浄6L、小洗浄4.8L小洗浄3.6L仕様を右記水量に変更することができます。・大洗浄8L、小洗浄6L変更する場合は、フラッシュバルブ同梱の施工説明書をご確認ください。

## 水たまり面が低下する場合の対応方法

マニュアルフラッシュバルブ、オートクリーンCともに通気有無を確認し、通気が取れていなければ通気を取ってください。

オートクリーンCの場合のみ

排水管の状況により水たまり面が下がる可能性があります。

<水たまり面の水位>

正常な状態	水たまり面が低い状態
<p>正常な水たまり面</p> <p>この面まで水がたまっている</p>	<p>水たまり面が低い</p> <p>この面(  部分)まで水がたまっていない</p>

※水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。水たまり面が低下する場合は、設定変更が必要です。詳しくはフラッシュバルブ同梱の施工説明書をご確認ください。

マニュアルフラッシュバルブの場合

水量調節ねじをあけて水量を増やして洗浄し、封水が戻ることを確認してください。

## 取り付け後の確認

- ・試運転後は、すべての接続部において水漏れしていないか確認してください。取り付けが不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
- ・試運転(洗浄)後、便器ボウル内に配管の切粉など異物がないことを確認してください。もらいさびなど異物付着の原因となるおそれがあります。
- ・陶器表面に傷などが無いことを確認してください。陶器表面に金属類(時計のバンド、ベルトのバックルなど)が強く接触したり、こすれたりすると黒や銀色のスジ状の跡が付くことがあります。スジ状の跡が付いた場合は、当社製品「蛇口まわりのクリーナー」で軽くこすって除去してください。
- ・施工したあとは、便器ボウル内に油などの見えない汚れ(コーキング剤、配管用接着剤など)の付く場合がありますので、トイレ用中性洗剤(研磨剤なし)を使って、必ず汚れをふき取ってください。便器ボウル面の洗い残りの原因となります。

## お客様に快適に使っていただくためのポイント

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用すると、こぼれた小水や結露水などが便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。

フローリング(木質系)を使用される場合は、便器ハカマ下部周囲に防カビ性のシリコン系シーリング材(メジシール)を充てんすることをおすすめします。



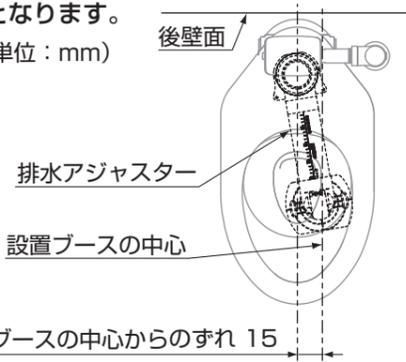
※本紙記載の品番は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

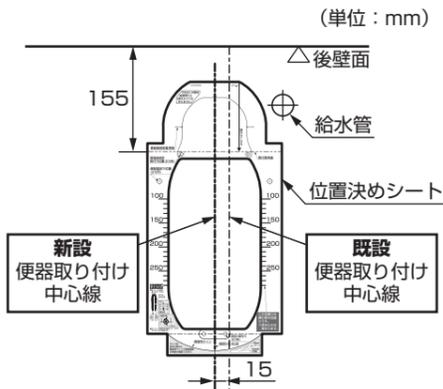
# 位置決めシートと床給水管が干渉する場合

排水アジャスターを傾けて取り付けることで、給水管と干渉せずに施工することができます。

干渉する場合は、右図のような施工となります。  
(単位：mm)



## 1 位置決めシートの位置決め

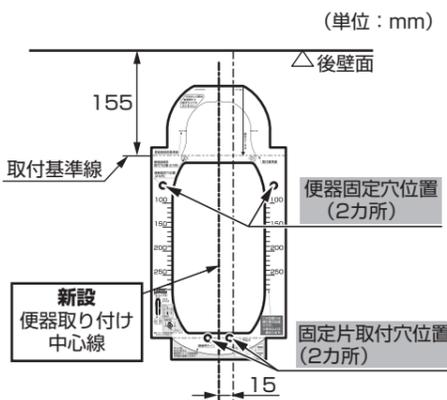


- ① 給水管取り出し範囲に止水栓があることを確認する。  
※給水位置が適切でないと、止水栓が商品に干渉することがありますので、ご注意ください。
- ② 便器中心線を、給水取り出し位置とは反対側へ15mmずらした位置に中心線をけがく。
- ③ けがいた中心線に、後壁面から155mmの位置に、位置決めシートの取付基準線をあわせて置く。

※取付基準線の位置決めは左右の2カ所で行ってください。  
※後壁面から取付基準線の寸法が155mm未満になると、便器やタンクが後壁面に干渉し、取り付けられないおそれがあります。  
※寸法出しの際は後壁面から行ってください。(幅木からではありません)

## 2 位置決めシートで取付穴位置をけがく

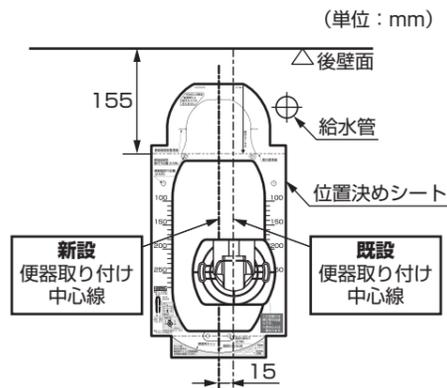
位置決めシートと床給水管が干渉する場合の穴けがき位置(4カ所)



- ① 固定片取付穴位置、便器固定穴位置をけがく。  
※ここでは、便器接続部取付穴位置はけがかないでください。
- ② 鉛筆など(あとで消せるもの)で便器取り付け中心線をけがく。
- ③ けがいた取付穴位置にφ3程度の下穴をあける。  
※φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。

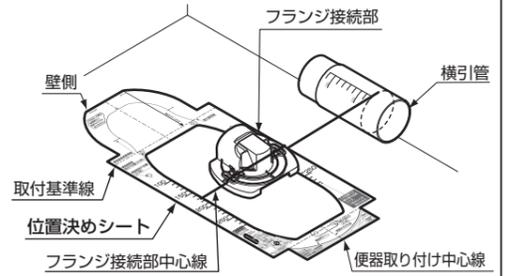
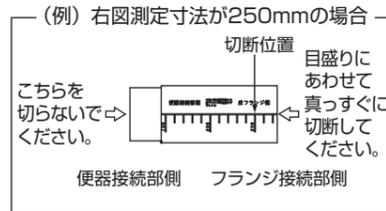
## 3 フランジ接続部の仮置き

既設フランジの上にフランジ接続部を置く。



**注意**  
フランジ接続部の仮置きは、壁面に対し平行となるように置いてください。  
傾けて置くと、横引管の切断が正確にできなくなります。

## 4 横引管の切断



- ① 既設フランジ中心線とフランジ接続部中心線をあわせる。
- ② 位置決めシートの目盛りと同じ目盛り位置で横引管を真すぐに切断する。
- ③ 横引管端部のバリを完全にに取り除く。

## 5 排水アジャスターの組み立て

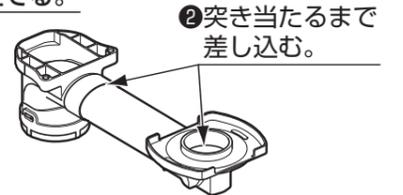
**注意**

**必ず実行**  
横引管は最後まで、きちんと押し込む  
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因になります。  
床面に対してガタツキがないように接着する  
ガタツキが大きいと水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因になります。

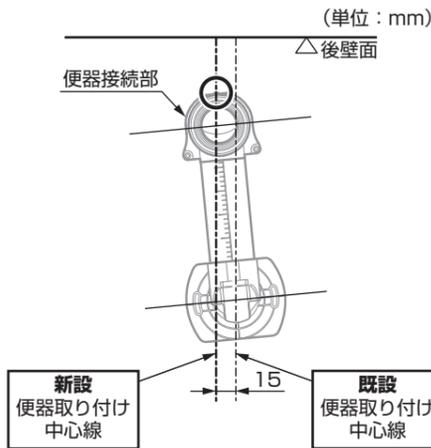
- ① 塩ビ用接着剤を全周に十分塗布し、各中心をあわせるように組み立てる。



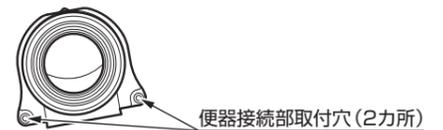
- ② 突き当たるまで差し込む。



## 6 便器接続部取付穴位置をけがく



- ① 排水アジャスターを排水管に仮置きする。
- ② 便器接続部の台座後方中心(凸部先端)を新設便器取り付け中心線のラインと合う位置まで排水ソケットを傾ける。(○印部)
- ③ 便器接続部取付穴位置(2カ所)をけがく。  
※鉛筆など(あとで消せるもの)で、便器接続部の取付穴を直接けがく。



以降の作業は、3ページ「取付方法 5～9」に従って作業してください。